

社会変化の兆候を見つける

社会変化の兆候を、日常活動の中で見出す方法を列記してみた。分析するまでもなく、いかに変化の兆候を見いだすかである。仮に変化の兆候を見つけたとき、兆候とした例を集め、分析する必要がある。

変わったものを見つけた時、例外として扱わないようにする心がけが必要である。例外として見過ごしていると変化を見逃してしまう。

《組織内で発見できる社会変化の兆候》

- 売上変化はどの商品に起こっているか。顧客の意識変化の傾向が出てきている。想定外以上の売り上げ増減が変化した場合、市場に意識変化が起こっている。
- 計画外コストが増えてきたら、問題が現れる傾向がある。
- 問題が発見されたら、すでに市場に変化が起こっている。
- 仲間の意見が全員一致するようになったら、限られたところしか見ていない印である。市場意識への硬直傾向、または組織硬直傾向にある。
- 同じクレームが続くと次期商品は衰退する。異なるクレームが出てくると顧客意識に変化が起こっている。

《市場での兆候》

- 同種類の業務で、新概念の商品が出てきたとき、市場は変動する。
- 他市場で、関連商品が出てきたとき、市場の枠組みが変わる。
- 落ち着いている市場で、他業種の市場への新規参入があったとき、顧客概念が移動・変化する。
- 商品の多機能化が現れてくると、市場は飽和になりつつある。

《社会での兆候》

- 社会での問題が様々に現れてきたら、半年後から1年後には解決しようとする施策が現れてくる。逆に決め事が多く現れてきたら、半年後か1年後に多くの問題が出てくる。
- 問題が表面化すると金の動きが小さくなり、解決策が出てくると金の動きが活発になる。しかし、市場形成はこの逆である。
- 新制度ができたり、制度が強化されると、関連市場は縮小されやすい。新市場ができる可能性が生まれる。
- 産業単位での計画が発表され、達成時期が集中すると、計画達成前後に新市場が生まれやすい。

《言語分析での兆候》

- 体言率が大きくなると、半年以内に社会問題が多発する。用言率が大きくなると問題は収束に向かう。
- 論理強制力の数値が上がり始めると、事件が起こりやすくなる。関連ワードに注意。
- 主張力系が下がり始めると、不透明な時を迎える。 etc.